

2025年12月28日 降誕節第一主日礼拝説教
「災いなければ救いもなし」(マタイ2章13～23節)

○マタイ2章13節のみことば

「ヘロデが、この子を探し出して殺そうとしている。」

ユダヤを治めていたヘロデは、幼子の知らせを聞いて恐れを抱き、己の身を守るため、命を奪おうとしたが、神の導きによりヨセフたちは、エジプトへ逃れた。

「ベツレヘムとその周辺にいた二歳以下の男の子を、一人残らず殺させた。」(16節)

幼子との出会いを果たせなかったヘロデは、怖ろしい手を使って、イエスの命を取ろうとしたが、死に至ったのは、身代わりとして選ばれた男の子たちだった。

☞神は、幼子を災いから救い出したが、ヘロデの悪しき企てを止めはしなかった。

「ヨセフは起きて、幼子とその母を連れて、イスラエルの地へ帰って来た。」(21節)

☆男の子たちの命と引き換えに生き延びた幼子が、やがて災いを受ける側となる。

「預言者たちをとおして言われたことが実現するため」(23節)

※災いと救い、怒りと赦しをもって近づく神の御心を、だれも変えることはできない。ただ十字架を仰いで、神を畏れ、救いに選ばれる者として生き続けよ。

*聖書翻訳本文は日本聖書協会『聖書 新共同訳』からの引用です。